

海外報告（ドイツ・韓国）

*フランクフルト紙芝居講座

主催：フランクフルト市教育庁

後援：(社)日本文化普及センター

日時：2015年3月27日（金）9:00～16:00

会場：Kolping Hotel ホール

講師：野坂悦子（統括委員・海外） 定員：40名

参加者：言語教育専門家、保育士、出版社、小学校教諭、スピーチセラピスト、書店、ライター、教育者&幼稚園のマネージャー、言語療法士、博物館員、社会教育士、図書館員（児童教育担当）など



photograph © Stefanie Kösling

フランクフルト市では、数年前から、紙芝居3作品+舞台1台を組み合わせたセットを希望者に貸し出し始めています。担当者の教育庁職員メヒティルド・デルフラーさんは、さらに紙芝居を広めようと、幼児教育・社会教育専門家や図書館司書を対象に、今回の講座を企画しました。「紙芝居とはどんなものだろう？」と好奇心でいっぱいの関係者が、市内はもとよりフライブルクやミュンヘン、さらにローザンヌ（スイス）からも集まりました。

それにしても、なぜ、kamishibai に注目したのでしょうか？ 人口80万人のフランクフルトには約180か国の人が住んでいます。移民の多い幼児クラスでは、物語を読んでも理解できない子どもが多く、紙芝居は幼児教育プログラムにぴったりとの判断から、組織的に導入されたのです。パリで行われたヨーロッパ紙芝居会議の動画や、フランス語圏での紙芝居の普及が、市の取り組みを始めるうえで大きな後押しになったと言います。

講座後、「紙芝居が単に絵を見せるだけ、言語教育のためだけのものではなく、演じ方によって聴衆との間に深いコミュニケーション（＝共感）を起こせるのがわかった」「保育園・幼稚園、図書館ではもちろん、博物館でも活用したい」等の声が寄せられました。なお、今回の紙芝居講座は、教育庁からの要望で、日本とドイツとの橋渡し役になってくれた海外会員の生熊文さんがいたからこそ実現したものです。さらにケルン日本文化会館の助成を得て、フランクフルトの(社)日本文化普及センターが発行者となり、Aya Puster Verlagから『ごきげんのわるいコックさん』、『やさしいまものバッパー』のドイツ語版が出版されました。『紙芝居の演じ方Q&A』のドイツ語版もまもなく出版される予定です。



*韓国の平和博物館会議

海外講座のほか、紙芝居文化の会は2014年9月20日～22日に、韓国ノグンリ平和記念公園で開催された第八回国際平和博物館会議に参加。平和博物館の運営者、草の根の平和活動を続ける人たちなど35か国から集った175名以上の参加者のまえて、会議最終日に『二度と』を英語で実演しました。

戦後70年目の今年、核無き平和な社会を希求する思いを、紙芝居を通して、これからも世界の人たちとじっくり深く重ねていければと思います。